

キウイフルーツ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	花腐細菌病	かいよ病	果実軟腐病	灰色かび病	すす斑病	貯蔵病害(灰色かび病)	白紋羽病	ゆけい促進
I Cボルドー66DFL	M1		*f	-		◎						
Zボルドー水	M1		*h	-	◎							
クプロシールドFL	M1		-	-		◎						
コサイド3000DF	M1		*h	-	◎							
			*i	-	◎							
ドイツボルドーA水	M1		*g	-	◎	◎						
エコショット顆水	BM2		l	-		◎						
マスタピース水	-		l	-		◎						
トップジンM水㊦	1		1	5			◎					
トップジンMペースト	1		*k	3								◎
ベンレート水㊧	1		7	5			◎		◎			
バレード15FL	7		1	2				◎				
ストロビーDF	11		1	3				◎	◎	◎		
ファンタジスタ顆水	11		1	3				◎	◎			
フロンサイドSC	29		30	1			◎	◎			◎	
			*L	1							苗	
カスミン液	24		90	4	◎	◎						
			*e	1		◎						
アグレプト水	25		90	4	◎	◎						
マイシン20水	25		90	4	◎	◎						
ロブラール水	2		l	4			◎			◎		
			*j					◎				
アリエッティ水	P7		*b	2			◎					
ダコニール1000FL	M5		60	7			◎		◎			
ベルコート水	M7		1	5			◎	◎		◎		
ナリアWDG	7・11		1	2			◎	◎	◎			
カスミンボルドー水	24・M1		*c	4	◎	◎						
			*d		◎	◎						
カップパーシン水	24・M1		*c	4	◎	◎						
			*d		◎	◎						
アグリマイシン-100水	25・41		*a	3	◎	◎						
銅ストマイ水	25・M1		*g	4	◎	◎						

㊦: チオファネートメチル含有剤 ㊧: ベノミル含有剤 ㊨を使用した場合には同じ作での㊩は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 856 参照)。*a: 落花期まで *b: 幼果期まで(収穫120日前まで) *c: 発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで *d: 休眠期 *e: 収穫後～落葉前まで *f: 収穫後～発芽前 *g: 休眠期～蕾出現前 *h: 休眠期～叢生期(新梢長約10cmまで) *i: 収穫後～果実肥大期 *j: 開花期～落花期 *k: 剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後 *L: 植付時 苗: 苗木

キウイフルーツ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	カ イ ガ ラ ム シ 類	キ ウ イ ヒ メ ヨ コ バ イ	カ メ ム シ 類	ケ ム シ 類	キ イ ロ マ イ コ ガ	ス カ シ バ	ハ マ キ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	チ ャ ノ ホ コ リ ダ ニ
スプレーオイル	UNM		*a		◎									
トモノールS	UNM		*a		◎									
スカシバコンL	—		*b							キ				
アグロスリン乳	3A	劇	7	3		◎	◎		◎	キ				
アディオン乳	3A		7	5			◎		◎					
スカウトFL	3A	劇	1	5					◎					
マブリック水20	3A	劇	7	2					◎					
アドマイヤーFL	4A	劇	*c	2			◎							
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		1	3			◎							
ダントツ溶	4A		1	3		◎	◎							
モスピラン顆溶	4A	劇	7	3	◎	◎								
トランスフォームFL	4C		3	3	◎									
コルト顆水	9B		1	3	ク									
コテツFL	13	劇	1	2		◎						◎		
パダんSG溶	14	劇	30	3		◎			◎					
アブロード水	16		1	2	幼	◎								
サンマイト水	21A	劇	14	1		◎								◎
ダニトロンFL	21A		1	1									◎	◎
アクセルFL	22B		1	3				◎						
テップン液	28		1	2				◎						
フェニックスFL	28		7	3				◎	◎	◎	◎			
アブロードエースFL	16・21A		1	1	◎	◎								

*a:発芽前

*b:成虫発生初期～終期

*c:収穫前日まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)

キ:キクビスカシバ

ク:クワシロカイガラムシ

幼:幼虫

キウイフルーツ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
果実軟腐病		・前年の果梗枝・剪定枝を早期に除去する。	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 ⑤を使用した場合には同じ作での⑥は使用しないこと、その逆も同様 (種子への処理および塗布処理を除く、詳細はp. 856参照)。
	6月上旬～7月下旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000 (FL) 500～1000倍 トップジンM水和剤●⑤ 1000倍 フロンサイドSC 2000倍 ベルコート水和剤 1000倍 ベンレート水和剤●⑥ 2000倍 ロプラール水和剤● 1000～1500倍	
花腐細菌病		・剪定を十分に行い、風通しを良くする。	#1 発芽後は新梢長約10cmまでに散布する。 #2 使用時期が遅くなるのと薬害のおそれがあるので、発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用する。
	休眠期～叢生期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 休眠期 500倍 発芽後叢生期まで#1 1000倍 コサイド3000 (DF) #1、#2 2000倍 Zボルドー(水) #1、#2 500倍	
	5月中旬～下旬 (開花期前まで)	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アグリマイシン-100水和剤 1000倍 カスミン液剤 400倍 マイシン20水和剤 1000倍	
かいよう病		1. 健全な苗木、穂木を使用する。 2. 風当たりの強い園では、防風対策をする。 3. 病枝は切り取り適切に処分する。 4. 収穫後～発芽前と発芽期～開花期の防除が有効である。	春先の樹液の漏出、発芽期から梅雨明けまでの病徴に、特に注意する。 風雨直後の防除を重点に行う。 # 使用時期が遅くなるのと薬害のおそれがあるので、発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用する。
		・ハサミ等の使用した器具は、ケミクロンG等で消毒する。 ・剪定等の切り口には、ゆ合促進剤(トップジンMペースト)を塗布する。	
		・次の薬剤のいずれかを散布する。 I Cボルドー-66D (FL) 25～50倍	
	収穫後～発芽前	コサイド3000 (DF) # 2000倍	
	収穫後～果実肥大期		

キウイフルーツ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(かいよう病)	休眠期～叢生期	カスミンボルドー(水) 休眠期 500倍 発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで 1000倍	
	休眠期～蕾出現前	銅ストマイ水和剤 600～800倍	
	落花期まで 収穫90日前まで	アグリマイシン-100(水) 1000倍 カスミン液剤 400倍	
クワシロカイガラムシ	7月	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アブロード水和剤# 1000倍 トランスフォームフロアブル# 1000～2000倍	#カイガラムシ類幼虫での登録
キウイヒメヨコバイ	6～11月	・次の薬剤のいずれかを散布する。 サンマイト水和剤 1500～3000倍 パダンSG水溶剤 1500倍	
キイロマイコガ	6月中旬～7月中旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 1000～2000倍 アディオン乳剤 2000～3000倍 パダンSG水溶剤 1500倍 マブリック水和剤20 2000倍	
キクビスカシバ	4～5月	・食入が疑われる枝は剪定して除去する。	主な食入部位である1年生枝を中心に散布する。 #スカシバ類での登録
	幼虫が新梢に食入する前～食入初期(4月中旬～下旬)	・次の薬剤を散布する。 フェニックスフロアブル# 4000倍	
カメムシ類	5～7月	・次の薬剤を散布する。 アディオン乳剤 2000倍	
ハダニ類	6～9月	・次の薬剤を散布する。 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍	
チャノホコリダニ	6～9月	・次の薬剤のいずれかを散布する。 サンマイト水和剤 1500倍 ダニトロンフロアブル 1000～2000倍	